

平成 24 年度さぬきの米を考える研修会資料

平成 25 年 3 月 22 日 (金)

香 川 県 農 業 再 生 協 議 会

平成24年度 さぬきの米を考える研修会 次第

1 開 会

2 あいさつ

3 研 修

1) 県産米の生産振興について

(1)平成25年度水稻生産方針

(香川県 農政水産部 農業生産流通課 課長補佐 大山 興央)

(2)県産米の生産・集荷・販売方針

(J A香川県 営農部 農産課 課長 北岡 泰志)

(3)水稻品質向上に向けた栽培管理

(香川県 農政水産部 農業経営課 課長補佐 藤田 究)

2) 講 演

香川県産米に望むこと

(講師 株式会社 ジャパンラオフード 代表取締役社長 川西 勝久氏)

3) 質疑応答

4 閉 会

平成 24 年度 さぬきの米を考える研修会 開催要領

1 目 的

国は、水田を最大限に活用し食料自給率向上を図るため、水稻と麦、大豆、飼料用米・米粉用米等の戦略作物等を始めとする土地利用型作物の生産振興を図っている。

一方、本県の米については、全国的な米の消費量低迷と生産過剰の中、需要量を維持拡大するとともに、水稻作付面積の維持と不作付地解消の手段として備蓄米や飼料用米等の新規需要米の取組も推進する必要がある。

そこで、県オリジナル品種「おいでまい」導入を契機とした「売れる米づくり」のための品質向上対策や、実需者の県産米への評価を聞き、今後の県産米評価向上に向けた活動を推進するため、標記研修会を開催する。

2 主 催 香川県農業再生協議会

共 催 香川県、香川県農業協同組合中央会、香川県農業協同組合、「おいでまい」委員会

3 日 時 平成 25 年 3 月 22 日（金）14：00～16：30

場 所 「丸亀市綾歌総合文化会館 アイレックス」大ホール

丸亀市綾歌町栗熊西 1680 番地 Tel 0877-86-6800（代）

4 研修内容等

時 間

1) 開 会

14:00

2) あいさつ

3) 県産米の生産振興について

(1)平成 25 年度水稻生産方針

14:10

(香川県 農政水産部 農業生産流通課 課長補佐 大山興央)

(2)県産米の生産・集荷・販売方針

14:25

(J A 香川県 営農部 農産課 課長 北岡泰志)

(3)水稻品質向上に向けた栽培管理

14:40

(香川県 農政水産部 農業経営課 課長補佐 藤田究)

休 憩

15:20

4) 講 演

15:30

香川県産米に望むこと

(講師 株式会社ジャパンラオフード 代表取締役社長 川西勝久氏)

5) 質疑応答

16:10

6) 閉会あいさつ

16:30

5 参集範囲（約 500 名程度）

米麦生産者・団体、実需者団体、土地改良区等役員、地域農業再生協議会、市町、香川県農業共済組合連合会、農業共済組合、高松地域センター、香川県農業会議、農業委員、香川豊南農業協同組合、香川県、香川県農業協同組合中央会、香川県農業協同組合

目 次

1 県産米の生産振興について

1) 平成 25 年度水稻生産方針 1

2) 県産米の生産・集荷・販売方針 4

3) 水稻品質向上に向けた栽培管理 9

2 講 演

香川県産米に望むこと 20

平成 25 年度水稲生産方針

香川県農政水産部農業生産流通課

1 基本方針

平成 16 年度から実施されている米政策改革の下では、米の生産量に対する需要量を重点に生産数量目標の配分が行われていることから、需要を維持拡大していくための「売れる米づくり」が重要である。

平成 25 年度の本県への生産数量目標の配分はやや増加しており、今後の生産数量目標の維持拡大を図るためにも、需要に即した計画的な生産と品質や食味の改善、販売促進を一体的に図ることが必要である。

一方、平成 22 年度から継続されている農業者戸別所得補償制度は平成 25 年度も経営所得安定対策として継続され、米の所得向上のためには、この制度を活用しつつ、地域や産地の状況に応じた「売れる米づくり」の方法を検討し、講じていく必要がある。

併せて、自給力向上と生産数量目標の超過達成部分や不作付地の解消のために、地域の実情に応じて、備蓄米の作付推進や飼料用米や米粉用米といった新規需要米の作付に取り組むこととする。

2 現状と課題

1) 品種別生産状況と今後の方針

コシヒカリ：県内販売割合 83%。需要量と生産量がほぼ同等のため、面積は現状維持。品質低下が著しく、需要量維持のために改善が必要。

はえぬき：県内販売割合 82%。地元スーパーでの一極集中的販売要素が強い。施設の円滑な運営上重要な位置付けで、作付面積の維持が必要。

ヒノヒカリ：県外販売割合 58%。卸業者には好評であるが、温暖化による品質低下が顕著である。作付は横ばい傾向にあるが、施設荷受や育苗体制が限界に達しており、作期分散可能な品種への切り替えが必要。

オオセト：県外販売割合 65%。灘と伏見の蔵元から安定供給が求められ、固定需要があったが、酒の販売状況が不振であることから、作付計画の見直しが必要となっている。

※うるち米全体の県内販売割合 57%

表) 品種別作付実績及び計画

品種名	平成24年産 (推計)		平成25年産 (計画)	
	作付面積	比率	作付面積	比率
コシヒカリ	5,430	37.7%	5,570	37.8%
はえぬき	740	5.1%	770	5.2%
オオセト	280	1.9%	350	2.4%
ヒノヒカリ	6,880	47.8%	6,430	43.7%
おいでまい	28	0.2%	600	4.1%
その他うるち	782	5.4%	740	5.0%
もち類計	260	1.8%	270	1.8%
水稲計	14,400	100.0%	14,730	100.0%

2) 水稲栽培の現状と課題

(1) 品質低下の要因

水稲の品質は、「1等米比率」で評価されるが、県内で生産されている水稲の1等米比率は全国的に温暖化が進んでいる中でも低位である。その要因として考えられることは、①品質確保のためには非常に厳しい気象条件、②兼業化、高齢化の進展、③厳しい水事情と後作を重視した登熟期の水管理 などがある。

(2) 品質向上のための対策

全国的に「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」など高温に弱い品種に作付が集中する傾向にあり、高温条件下で品質低下を防ぐための栽培方針について、検討を行った。

その結果、取り組むべき内容の代表的な項目は以下のとおりである。

- ①登熟期の高温を避ける遅植えの実施（田植マップに沿った田植）
- ②温暖化対応技術の推進と定着
（施肥改善、適正な水管理、病虫害防除、地力向上対策の実施）
- ③温暖化対応品種「おいでまい」の円滑な普及と消費拡大

3) 「おいでまい」の生産振興

平成23年度～24年度の試験栽培や販売の実績は、非常に好調であった。平成25年度からの一般栽培は、重点推進地域の綾川町と「おいでまい」委員会が認定した小豆島町と直島町を除く県内各市町の生産者により、約600ha程度が作付けされる予定である。

表) 「おいでまい」の作付推進計画

年 産	25年産	26年産	27年産
作付面積(ha)	600	800	1,000

「おいでまい」の栽培については、実需者からの評価が高いライスグレーダーの篩目1.85mmの使用、品質・食味の安定を図るための栽培基準の遵守を基本に推進しており、一般栽培の開始にあたっては、県農業経営課や農業試験場、農業生産流通課と連携した農業改良普及センター、JA香川県等による栽培指導の強化を図ることとしている。

また、消費者向けのPR活動や小売業界への周知などについても「おいでまい」委員会を中心に、県内外の米卸業者や販売業者と連携して進めていくこととしている。

3 備蓄米及び新規需要米の取り組み

国が目指す自給力向上と水田の有効活用のため、特に備蓄米と、需要が見込める飼料用米について、作付を図る。

飼料用米を含む新規需要米は、実勢価格が非常に安価であるため、経営所得安定対策の水田活用の直接支払交付金（戦略作物助成）の80,000円/10aや産地資金を活用した取り組みを従来から行っており、地域の状況や推進方針に応じて対応をする。

○メモ欄 平成 25 年度水稲生産方針

I. 24年産米の総括

1. 生産・集荷の状況

(1) 平成24年産米の主食用米作付面積（酒造用米、もち米含む）（単位：ha）

区分	24年産			23年産			前年対比	
	配分面積	作付実績	達成率	配分面積	作付実績	達成率	配分面積	作付実績
	①	②	③=②/①	④	⑤	⑥=⑤/④	⑦=①-④	⑧=②-⑤
(県計)	14,520	14,454	99.5	14,740	14,452	98.0	▲220	+2

※24年産は34haの市町間調整実施並びに飼料用米からのUターン（推定160ha）、
23年産は市町間調整未実施

(2) 平成24年産米の集荷実績（単位：トン）

区分	24年産（作況101）			23年産（作況97）			前年対比	
	出荷契約	集荷実績	契約対比	出荷契約	集荷実績	契約対比	出荷契約	集荷実績
	①	②	③=②/①	④	⑤	⑥=⑤/④	⑦=①/④	⑧=②/⑤
(計)	35,636	31,120	87.3%	37,070	28,784	77.6%	96.8%	108.1%

(3) 平成24年産米に係る水田活用の状況（単位：ha）

	備蓄米①	飼料米②	米粉米③	WCS④	加工米⑤	その他⑥	合計①～⑥
24年産	0	116	18	32	-	1	167
23年産	117	92	13	28	-	6	255
24-23	▲117	+24	+5	+4	-	▲5	▲88

2. 販売の状況

(1) 収穫前契約の取組み

豊作基調（全国作況102）にもかかわらず米価が高騰するという、かつて経験したことがない情勢のなか、本県産米における収穫前契約も20,000t（集荷目標の70%）積上げを図った。

○コシヒカリ（単位：円/60kg、1等、税抜）

	基準価格	変動率	上限価格	下限価格	現行価格	契約数量
24年産	17,000	±10%	18,700	15,300	16,700	6,480 t

○ヒノヒカリ、はえぬき、あきたこまち（単位：円/60kg、1等、税抜）

	基準価格	変動率	上限価格	下限価格	現行価格	契約数量
24年産	16,000	±10%	17,600	14,400	15,500	13,000 t

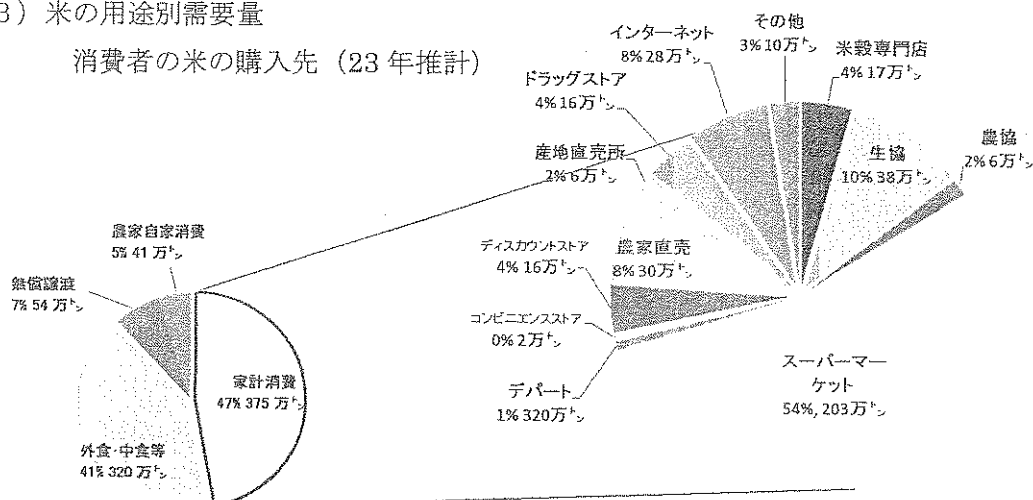
(2) 本県産主要銘柄の平均価格（単位：円/60kg、税抜、1等、包装込）

	コシヒカリ	はえぬき	ヒノヒカリ
24年産	16,365	15,082	15,137
23年産	15,071	13,944	14,005
22年産	12,408	10,999	10,928
24-23	+1,294	+1,138	+1,132
24-22	+3,957	+4,083	+4,209

※平成24年産は25年2月末基準である。

(3) 米の用途別需要量

消費者の米の購入先（23年推計）



(出所) 農林水産省「食料需給表」、総務省「家計調査」、総務省「人口推計」、米穀機構「米の消費動向調査結果」等にもとづき全農で作成（一部推計値を含む）。

(4) 精米販売価格

用途	精米価格（円/kg、税込）		備考
	コシヒカリ	コシヒカリ以外	
一般家庭用途	520	463	24年12月末5kg精米袋
業務用途	330～350	290～320	県外取引先情報

※一般家庭用途：東京都内（特売除く）小売物価統計（総務省）

(5) 本県産の県内における精米販売価格

用途	精米価格（円/kg 税込）		備考
	コシヒカリ	ヒノヒカリ	
一般家庭用途	376～456	376～396	25年3月現在5kg精米袋
業務用途	335	315	2等原料（歩留率89.7%）

※本県産米の取引先情報

II. 平成25年産米の取り組み基本方針

1. 生産・集荷計画

(1) 主食用米作付面積の推移

(単位：ha)

25年産	24年産		23年産		配分比較			作付比較
配分面積 ①	配分面積 ②	作付実績 ③	配分面積 ④	作付実績 ⑤	25-24 ①-②	25-23 ①-④	24-23 ②-④	24-23 ③-⑤
14,730	14,520	14,454	14,740	14,452	+210	▲10	▲220	+2

(2) 25年産米集荷目標数量

(単位：トン)

区分	25年産 (作況100)			24年産 (作況101)			23年産 (作況97)		
	配分数量 ①	集荷目標 ②	集荷率 ③=②/①	生産数量 ④	集荷実績 ⑤	集荷率 ⑥=⑤/④	生産数量 ⑦	集荷実績 ⑧	集荷率 ⑨=⑧/⑦
(計)	73,490	32,000	43.5%	72,924	31,120	42.7%	69,845	28,784	41.2%

(3) 政府備蓄米への取り組み

平成25年産米では25万tの政府買入枠が決定。

本県ではそのうち500tを全量優先枠として国から配分。

仮渡金単価：13,500円/60kg (銘柄問わず、税込、1等、包装込)。

別途、産地資金より10a当たり15,000円の備蓄米生産助成金の交付。

○先ず、地域農業再生協議会から配分された主食用米作付面積は、集落内調整等を実施のうえ確実に作付けする。

○主食用米の配分面積を超えて作付する場合は、政府備蓄米を優先的に取り組む。

	優先配分枠 (t)	落札数量 (t)	落札価格 (円/60kg)
25年産	500	応札中 (2/26 現在 240)	14,140
24年産	590	—	12,767
23年産	1,300	585	10,700

(税別、1等、包装込)

2. 販売方針

(1) 収穫前契約

- ・契約目標 20,000t (主食用米販売計画の70%以上)
- ・生産年の7月末までに締結することとする。

○コシヒカリ

(単位：円/60kg、1等、税抜)

	変動率	上下限想定価格	契約数量
25年産	±10%	17,600~14,400	7,000t

○ヒノヒカリ、はえぬき、あきたこまち (単位：円/60kg、1等、税抜)

	変動率	上下限想定価格	契約数量
25年産	±10%	16,500~13,500	12,000t

(2) 播種前・複数年契約

相対基準価格が変動するなか、業務用途を対象に毎年安定した価格により特定期間内に一定の販売量を確保することを目指すこととし、3年間の複数年契約を前提に取組みを開始する。

- ・契約目標 2,500 t
- ・生産年の5月末までに締結することとする。
- ・基準価格、変動率は、取引先と協議に基づき決定する。

3. 「おいでまい」の良食味米産地を目指して

○一般財団法人 日本穀物検定協会による24年産米「特A」格付け産地一覧

道府県	地区	品種	24年 産米	参考		道府県	地区	品種	24年 産米	参考	
				23年	22年					23年	22年
北海道	全道	ななつぼし	特A	特A	特A	福井	全県	コシヒカリ	特A	A	A
	全道	ゆめぴりか	特A	特A	—		全県	ハナエチゼン	特A	A	A
岩手	県南	ひとめぼれ	特A	A	A	山梨	峡北	コシヒカリ	特A	A	A
宮城	県北	ひとめぼれ	特A	特A	特A	長野	南信	コシヒカリ	特A	—	—
秋田	県南	あきたこまち	特A	特A	特A	三重	伊賀	コシヒカリ	特A	特A	A
山形	全県	コシヒカリ	特A	特A	特A	京都	丹後	コシヒカリ	特A	特A	A
	全県	はえぬき	特A	特A	特A	奈良	県北	ヒノヒカリ	特A	特A	特A
	全県	つや姫	特A	特A	特A	福岡	全県	元気つくし	特A	特A	A
福島	会津	ひとめぼれ	特A	特A	特A	佐賀	全県	さがびより	特A	特A	特A
栃木	県北	なすひかり	特A	特A	特A	長崎	全県	にこまる	特A	特A	特A
新潟	中越	コシヒカリ	特A	特A	特A	熊本	城北	ヒノヒカリ	特A	特A	特A
	魚沼	コシヒカリ	特A	特A	特A		全県	森のくまさん	特A	特A	特A
	岩船	コシヒカリ	特A	特A	特A		全県	くまさんの力	特A	—	—
	佐渡	コシヒカリ	特A	特A	特A	大分	全県	ヒノヒカリ	特A	A	特A
石川	全県	コシヒカリ	特A	A	A	(計)			29		

「特A」を目指すために、

県内全域で基本の栽培管理を確実にを行い、1等米でかつ良食味な米を栽培する。

○今後の「おいでまい」の生産計画

23年産	24	25	26	27
①試験栽培期間		②全面切替え加速化検討期間		
10ha	28ha	600ha	800ha	1,000ha

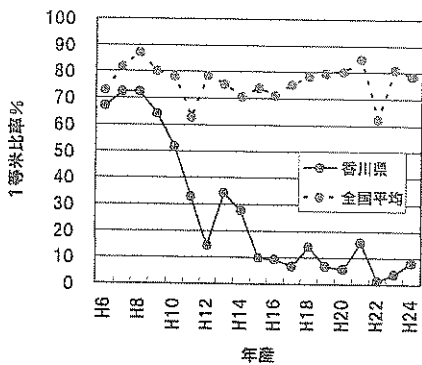
○メモ欄 県産米の生産・集荷・販売方針

水稻品質向上に向けた栽培管理

～温暖化時代にあった稲作への転換～

香川県農政水産部農業経営課
農業革新支援グループ
藤田 亮

香川県の米の品質は？



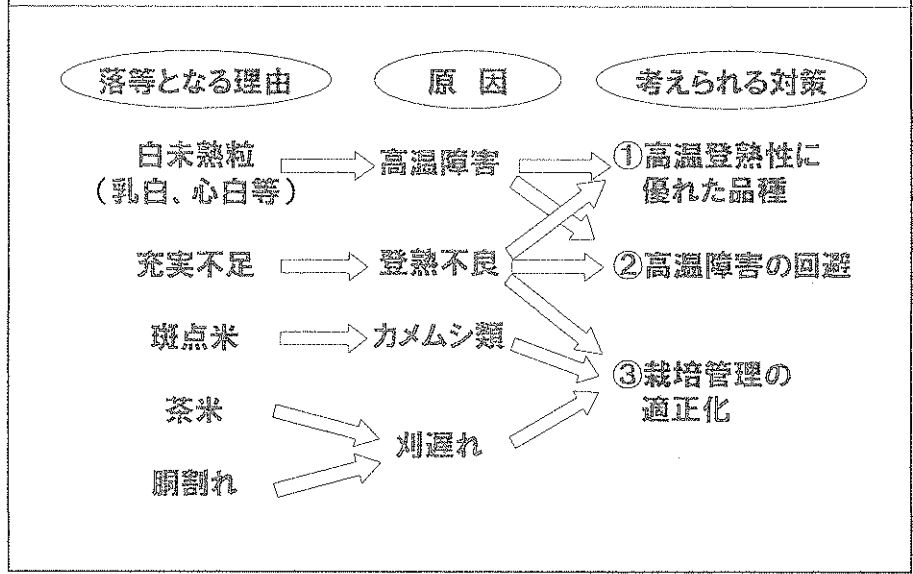
1等米比率のワースト順位

- 平成24年 2位(東京)
- 23 2位(東京)
- 22 2位(東京)
- 21 2位(東京)
- 20 2位(東京)
- 19 3位(東京、高知)
- 18 5位(東京、福岡、沖縄、高知)
- 17 2位(東京)
- 16 2位(沖縄)

※カマコ内は香川県より低い都県

1等米比率の推移

どうすれば1等米が生産できるか考えよう！



1等米生産の考え方

- ①高温登熟性に優れた品種を選択する。
→高温登熟性品種の導入
- ②高温障害を回避する。
→田植え時期を遅らせる。
- ③栽培管理の適正化
→暑さに負けない稲作り。



粒張りの良い米を作る。
→適正な籾数を確保して登熟を良くする。
→デンプンを十分につめると食味も向上する。

1等米生産に向けたポイント10

	ポイント
1 品種の選択(高温登熟性品種).....	1
2 田植時期の設定(高温障害の回避)...	2
3 栽培管理の適正化	
①育苗.....	3
②土づくり.....	4
③施肥.....	5
④田植作業.....	6
⑤水管理.....	7
⑥病害虫防除.....	8
⑦収穫.....	9
⑧乾燥・調製.....	10

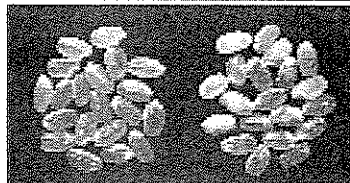
ポイント1

1 品種の選択

地域にあった品種を選択する。

高温障害が出やすい地域では高温登熟性に優れた品種を導入。

	高温登熟性	外観品質	食味
コシヒカリ	中	不良	良
ヒノヒカリ	弱	不良	良
コガネマサリ	強	良	不良
おいでまい	中	良	良



おいでまい

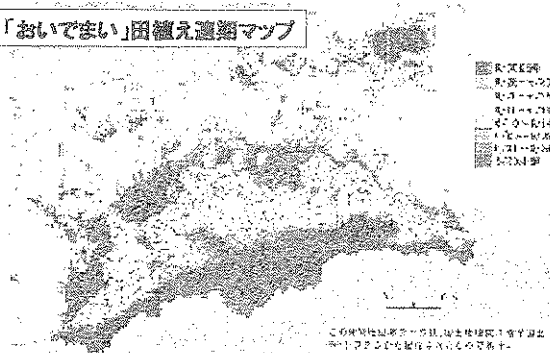
ヒノヒカリ

ポイント2

2 田植時期の設定

遅植えによって高温障害を回避する。
→登熟期の気温が適正になるよう出穂させる。
→適期に出穂するように田植え時期を設定。
(雑苗移植の場合)

「おいでまい」田植え適期マップ



このマップはあくまで目安であり、実際の田植え時期は、
その地域の気候や土壌条件によって異なります。

香川県農業試験場作成

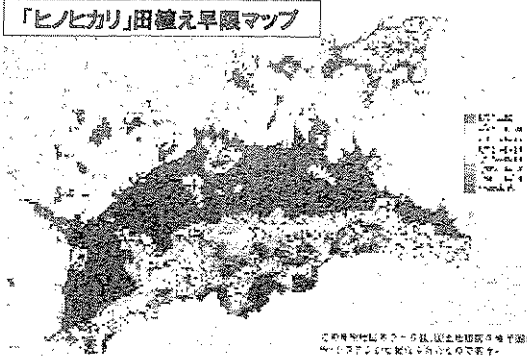
ポイント2

2 田植時期の設定

ヒノヒカリの場合

1等米を生産するための限界温度で設定した場合の田植え時期

「ヒノヒカリ」田植え早限マップ



このマップはあくまで目安であり、実際の田植え時期は、
その地域の気候や土壌条件によって異なります。

香川県農業試験場作成

ポイント3

3 栽培管理の適正化 ①育苗

育苗のポイント

①病虫害対策を確実に実施

種子消毒、苗立枯病防除

②厚播きを避ける。

1箱当たり催芽初180g(乾籾約150g)

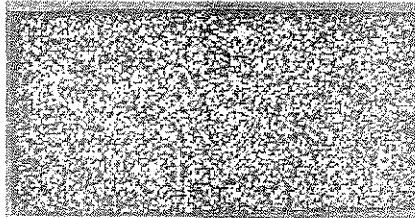
→1合8勺でなく1合6勺程度

③太くしっかりした苗とする。

播種後20日の稚苗

草丈12~13cm(15cmをこえない)

葉齢2.2~2.5葉



ポイント4

3 栽培管理の適正化 ②土づくり

粒張りの良い米を生産するためには
登熟力の高い根を最後まで維持する必要がある。
→土づくりが重要



①作土深の確保

→15cm以上で耕起する。

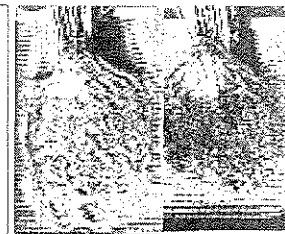
②土壌の養分バランス

→土壌改良資材の投入

ケイ酸の補給は登熟にプラス

③有機物の投入

→麦わら、稲ワラは焼かずに鋤込む。



ヒノヒカリの根系分布
(左:作土深26cm、右:作土深8cm)
(香川県農業試験場、2000年)

ポイント5

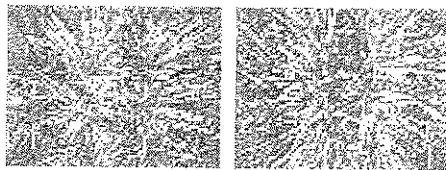
3 栽培管理の適正化 ③施肥

地域の栽培しおりを基本とする。
地力や前作を考慮して施肥設計を立てる。

①速効性肥料とツーショット肥料の場合

基肥: 多すぎると粒数過多→登熟不良

穂肥: 施用時に草丈、葉色により加減する。



適正な深り方
(地面が見えている)

深りすぎ
(地面が見えない)

穂肥施用時の稲の姿 (上から見た様子)

「おいでまい」の穂肥診断基準

葉色板	穂肥1施用量
4.0未満	基準量
4.0以上	基準の半量
5.0以上	施用を見合わせる



葉色板(見本)

ポイント5

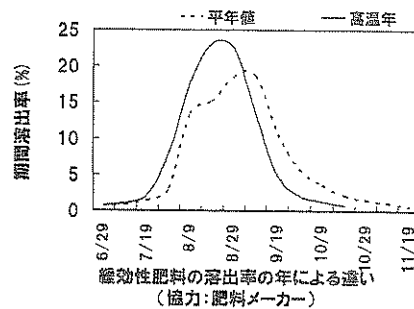
3 栽培管理の適正化 ③施肥

②基肥一発肥料の場合

追肥で調節ができない省力技術

温暖化によって想定より早く溶出してしまう。

→温暖化対応型肥料へ移行を検討

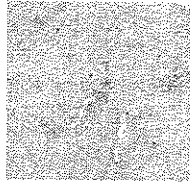


ポイント6

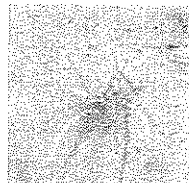
3 栽培管理の適正化 ④田植作業

適正な栽植密度、植付深度で田植える。
密植、植付本数過多は過繁茂となって品質低下の原因となる！

- ①栽植密度→株間18~22cm(坪50~60株)
1株植付本数3~4本
- ②植付深度→2~3cm
- ※田植え作業開始後に必ず抜いて確認すること。



○植付本数適正



×植付本数過多

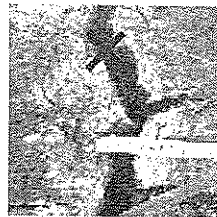
ポイント7

3 栽培管理の適正化 ④水管理

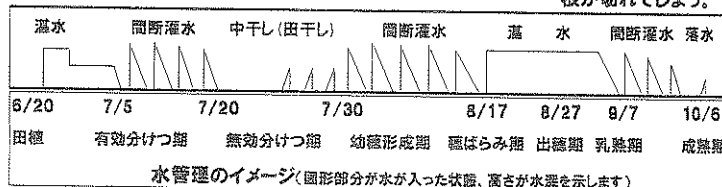
根の健全化を念頭におき、ためすぎたり、干しすぎたりせず、
稲体にやさしい水管理を！

水管理のポイント

- ①田植え後活着までの湛水
- ②分けつ期の適切な間断灌水
- ③適度な中干し(小さなひびができる程度)
- ④出穂期前後(穂ばらみ期~乳熟期)の湛水
- ⑤登熟期の間断灌水
- ⑥落水はできるだけ遅く！



大きなひび割れができると
根が切れてしまう。

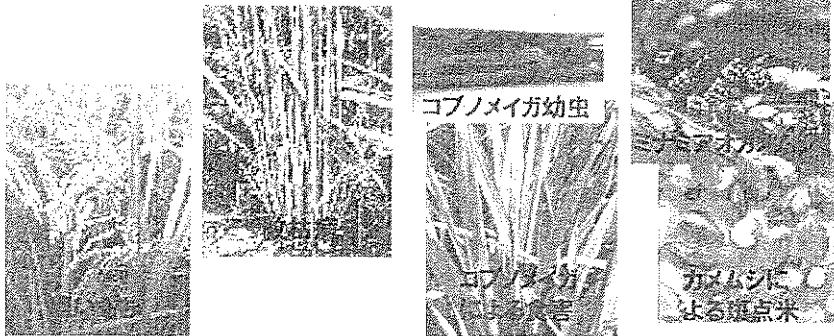


ポイント8

3 栽培管理の適正化 ⑤病害虫防除

栽培しおりに基づいて必須防除を必ず行う。
突発的な病害虫が発生すれば、確認防除を行う。

米の品質(粒ばり、斑点米)に影響する以下の病害虫は特に要注意!



ポイント9

3 栽培管理の適正化 ⑥収穫時期

収穫適期を把握し、適期に収穫する。
→温暖化により成熟期が前進しているので注意が必要!

収穫適期の判定

→黄変籾率80~90%が目安

- ・早刈り→青未熟粒で充実不足
- ・刈り遅れ→胴割れや茶米が発生

収穫の適期の判定



ポイント10

3 栽培管理の適正化 ⑦乾燥・調製

乾燥作業

高温、急激乾燥は避け、仕上り水分14.5～15.0%とする。
過乾燥になると収量が減るだけでなく、胴割米が発生して品質が低下する。
しかも、硬くなって食味評価も下がる。
香川県産米は過乾燥米が多いと指摘されている。

調製作業

品種にあった篩目を使用する。
流量を落として屑米をしっかりと抜く。
全国的には1.85～1.9mm以上が主流。
場合によっては色彩選別機を使用する。

平成23年産米の水分別出回り比率

米水分%	割合%	
～13.0	0.6	過乾燥
13.1～13.5	6.7	
13.6～14.0	32.2	
14.1～14.5	51.4	
14.6～15.0	8.9	適正水分
15.1～15.5	0.2	水分過多

1等米生産に向けたポイント10(まとめ)

- ポイント1 地域にあった品種を選択すること。
- 2 適正な田植え時期で高温障害を回避すること。
 - 3 厚播きを避け、太くしっかりした苗を作ること。
 - 4 健全な根を育む土づくりを行うこと。
 - 5 施肥設計は地域の栽培しおりを基本とすること。
 - 6 適正な栽植密度、植付深度で田植えすること。
 - 7 稲体にやさしい水管理を行うこと。
 - 8 栽培しおりに基づいて必須防除を必ず行うこと。
 - 9 黄変籾率を確認して適期に収穫すること。
 - 10 適正水分に仕上げ、屑米をしっかりと抜くこと。

米生産者の所得を向上させるためには？

あなたはどちらのシナリオを選びますか？

シナリオA

過剰施肥による収量増
↓
多収を得た人のみ手取り増加
↓
品質悪く、食味が不良
↓
産地としての評価が落ちる
↓
県産米の価格低下
↓
生産者全体の手取り減少

シナリオB

適正管理による品質向上
↓
1等米生産によって手取り増加
↓
品質良く、食味も良い
↓
産地としての評価が向上
↓
県産米の価格向上
↓
生産者全体の手取り増加

●講師紹介 川西勝久（かわにしかつひさ）氏

昭和 24 年岐阜県生まれ

職 業

米穀業

株式会社ジャパンラオフード 代表取締役 社長

大阪府四條畷市二丁通町 2 1 - 4 TEL 072 (876) 0657

関連会社 株式会社ナインリベット（衣料関係）

* 日本米穀小売商業組合連合会 食育講師登録

* 日米連 五ツ星お米マイスター認定者

現在の主な役職

* 総務省 行政相談委員

* 大阪府社会教育委員連絡協議会 理事

* 大阪府四條畷市社会教育委員会 議長

* J A 香川県 さぬき米夢クラブ 会長 など

尚、人間教育を目的とした大人の寺子屋「耕心塾（こうしんじゅく）」を主宰、
また大阪府下小学校の食育講師として、毎年多くの小学校で授業を行っています。
その他、J A 関係や企業の社員教育・P T A 等に講演活動を行っています。

《褒賞》 平成 20 年度

社会教育功勞により 文部科学大臣表彰 受賞（平成 20 年 12 月 3 日）

平成 24 年度さぬきの米を考える研修会レジュメ

平成 25 年 3 月 22 日

於：丸亀市綾歌総合文化会館

川 西 勝 久

演題「香川県産米に望むこと」

日本の米作りと米食文化

(日本の食文化と国柄)

現在人の食に対する考え方

(現代の食事感覚から見る日本危機)

少子高齢化—今後の日本人口と農業

TPPってどうなる

さぬき米は生き残るのか

関西の米事情 (百貨店・スーパー・米専門店・ネット・コンビニ)

さぬき米生産者 (後継者) とこれからのさぬき米作り

若者の夢はさぬき米作りの夢 “世界をめざせさぬき米”

